**北大生協2019年度第７回理事会　発言録**

1　日時　2019年12月18日（水）　　18:17～20：08

2　場所　北大生協会館店3階・会議室　（札幌市北区北8条西7丁目）

3　出席役員

理事総数　　21名中　18名出席

（出席理事）柿澤宏昭理事長（～19:12）、吉見宏理事、小助川誠理事、羽山広文理事、
山崎幹根理事（18:20～）、谷遼大理事、髙橋真太郎理事、中山拓登理事、稲垣征哉理事、髙橋廉理事、安藤亮博理事、豊原涼太理事、伊藤凌理事、阪上佑真理事、奥山莉子理事

（欠席理事）笠原敏史理事、寺澤睦理事、川上豊理事、大道元理事、工藤勲理事、今井彩乃理事、

監事総数　　5名中　3名出席

（出席監事）坂爪浩史監事会議長、久保淳司監事（18:47～）、江戸將風監事（18:20～）、

三上苑子監事（18:20～）、小山ひなの監事（18:20～）

4　議長 髙橋真太郎　常務理事

5　議事の経過の要領とその結果

上記の通り理事の出席があり、理事会規則第8条に基づき本理事会は成立した。

18時17分に理事会規則の規定により議長髙橋（真）理事を選任した。髙橋（真）理事は理事会の開会を宣し議事に入った。

【協議事項】

【経営再構築タスク報告書】

【協議】

坂爪：正規職員10名削減は定年による自然減以外にも減らすのか？

小助川：60歳定年後にシニア職員となる。その分と新規採用を3名にしていくなどを考えている。全道全体の人事の中で考えないといけないこともある。

中山：事業連合の話が出ているが、事業連合の合併が北大生協にとってイメージしたものが違ったという認識か。他の生協はどう受け止めていて、北大生協はどんなスタンスで連合と付き合っていくのか。

小助川：新事業連合ができて1年。事業連合理事会でも価格政策をもっと打ち出したほうが良いのではないかという議論をしている。他の地域なども含めて、統合したことですべての会員が悪くなったということではない。

鏡：事業連合の統合では、当初は混乱もみられたが、しかし徐々に改善してきていると思っている。店舗でも、事業連合の提案が、徐々に生かされてきているのではないか。

中山：事業連合がかかわると商品展開・選定がメインになるがそれが生協のすべてではない。多くのコミュニティが参加していることが強みで、上級生から新入生など経験を伝えるなどそれをどう活用するかを考えないといけないのではないか。

小助川：新学期の事業を通年の事業・取り組みにどうつなぐかということが課題だと思っている。

伊藤：組合員のニーズに対しての機能統合で部門間の役割連携はどんなイメージをしているのか。

小助川：今の縦割りの事業では今後成り立たないと思っている。例えば「書籍部門」ではなく、「学びと成長」という中で旅行・書籍・キャリアを色々な形で提案できないかと考えている。それ以外にも小規模店や食堂で書籍を販売するなどもできるのではないかと考えている。

吉見：今回のタスクは職員サイドからの問題点の洗い出しであり、今後は理事会としてどんな方針を持ち運営していくのか議論していくことが必要である。現在は生協組織が縦割りになっている面もあるので、その垣根を取り払うことで見えてくること、生まれるものがあるのではないかと可能性を見ている。

全道人事の中で今の職員たちが今後専務を担うという面も考えて、いろんな部門を把握している人材を北大として育てることも必要だと思う。

羽山：いろいろな生協の全体の数値があるが各生協の特性があり、この表だけでは情報が足りないのではないか。各部門の供給と投入人数なども含めてみることで比較対象ができるのではないか。

鏡：各生協の部門ごとの数値の情報はある。次回以降各生協の数値の情報も精査しお伝えしたいと思います。

吉見：北大は物件費が多いというのは昔から言われている。それは規模の小さい店舗が多いことも要因だと思う。機能を統合した大きい店舗を作るという議論もあるし、他方で冬になると組合員の移動範囲が狭くなることもある。その中で大きな店舗があっても利用につながらない可能性も高い。今回は店舗のスクラップ＆ビルドの話も出ているのでもっと色々な政策を考えていきたい。

中山：購買の食品部門は売れていないだけでなく、文具の利用が下がっている要因はなにかあるのか。

小助川：ノートからパソコンへなど変化もあるが、電子購買システムになってから校費の利用減少が大きいと思われる。ソフトウェアも大学がライセンス取得したことが供給減の大きな要因になっている。

小助川：今後は店舗からの予算・方針が出てきますので、その中で具体化していく。議論も継続していきますので皆さんよろしくお願いいたします。

議決事項

【2019年11期営業総括および決算承認の件】

【質疑】

中山：飲み物利用について生協ではホット飲料が多くないように感じる。研究室でコーヒーなどを飲んでいる学生もいる気がする。12月も継続されるなら4年生・院生は同様の傾向だと思う。また学部生でも、飲み物は持ち運びできるのでよその安いところで買って大学に持ってきている可能性もあるのではないか。

吉見：皆さん飲み物は外で買ってくる傾向はあるか？

奥山：増税の影響はあるように気がする。外のほうがやはり安い。私も飲み物へかけるお金を下げている。

本間：飲料の単価が20円上がっているので、やはり「生協の飲料は高い」という印象を持たれていると思う。

吉見：飲料の単価が上がっているのは事業連合の責任も大きいと思う。結集の目的の一つは価格を下げるところだった。まだその機能を果たせていない。

坂爪：単協のために事業連合があって、事業連合のために単協がある訳ではない。北海道事業連合として以前の取引先との関係を一部復活させてもいいのではないか。スポットでもいいので価格の安い商品を入れるなどできたら学生の見る目も変わるのではないか。

吉見：一例であるがコカコーラ北海道とは先方の政策もあってかなり安い納入価を設定していた。「もう一回取引をしたい」といっても以前と同様の条件にはならないと思われる。

【生協主催講座規約制定の件】

【質疑】

谷：条と項目の内容があってない（9条・10条）。「複写、販売が一切できない」はあり得ないのではないか。連合約款のモデル規約はあまり信頼性が高くないので司法試験の予備校の約款を確認してほしい。受講者が解約する条項はあるが、生協から受講生との契約を解約する旨の条項がない。その項目も入れておいたほうがいい。

吉見：指摘を受けた事項について検討することとし、専務理事に一任でよいか。1月7日から執行は中途半端ではないか。一般的には規約を決めた日か、〇月1日など切れがよい日にする。

鏡：修正したものを週明け早々に理事へメールで送信しますので、ご確認いただきたい。

報告事項

【組織委員会報告】

【質疑】

中山：レジ袋有料化に伴って、そちらに集まった費用の使用目的を1月理事会にて決める予定だと環境委員会で話があった。皆さんからもアイディアをいただけると幸いです。

以上を持って全ての議事が終了したので、議長は20時8分に終了を宣した。